

献呈の辞

キャンパスにも春陽麗和の季節が感じられるようになってまいりました。今年度もまだまだコロナウイルスへの備えを緩めることはできませんでしたが、それでも9割近くの授業が対面で行われるようになりました。特に、人間科学部において少人数で行われる実習は、カリキュラムの核となる重要な授業ですので、この実習も含めて授業が本来の姿に戻りつつあることは喜ばしいことであります。新年度には専修大学の心理教育をさらに前進させていくこととなりますが、そのようななかで、これまで心理教育を牽引されてこられました心理学科の吉田弘道教授が令和5年3月末日をもって定年をお迎えになりご退職なさいます。

吉田先生は昭和27年に新潟県柏崎市でお生まれになり、昭和51年に早稲田大学第一文学部心理学科を卒業されました。その後、早稲田大学大学院文学研究科博士前期課程心理学専攻、同研究科博士後期課程心理学専攻に進学され、昭和61年に単位取得をされました。

大学院ご在籍であった昭和52年には都立八王子保健所3歳児健診心理判定員をお務めになり、皮切りに調布市立教育相談所心理相談員、神奈川県立相模原保健所心理判定員、渋谷区立渋谷区教育センター教育相談員、財団法人・日本児童手当協会日本総合児童センター（こどもの城）小児保健部心理専門職、平成7年には財団法人東京都精神医学研究所・臨床心理研究部門主任研究員になられ、一貫して乳幼児を中心に臨床実践をされてこられました。また湘北短期大学、淑徳大学、明治学院大学、早稲田大学で教鞭を執られ、昭和60年に「乳児の微笑と人みしり一微笑の発達とはたらきを中心に」を著されて以降数多くのご著作をお持ちで、研究者として素晴らしいご業績を残されてこられました。

平成12年に専修大学文学部教授にご着任なさり、23年の長きにわたるご在職中、心理学科長や心理教育相談室長の重職を担われ、また大学院研究科委員をはじめ、学生相談室員、図書館委員、自己点検委員、広報委員や教育開発支援委員など数多くの役職を歴任され、臨床教育を牽引されるとともに大学全体へのご貢献も実に大きいものでありました。

また吉田先生にご指導を頂き薫陶を受けた学部卒業生や大学院修了生は、教育現場や臨床現場で活躍しています。しかし私をはじめ心理学科教員も、先生のお姿やお考えに身近に触れる度に学ばせて頂くことが多くございました。

このような大きな柱となって下さった吉田先生がご退職になることに惜別の念を禁じ得ませんが、つきることなき深謝を申し上げて、献呈の辞とさせていただきます。

令和5年3月

専修大学人間科学部長 下 斗 米 淳